

指導の狙い

相手の発言を注意して聞き、自分の考えを話したりその考えを基に話し合ったりすることができるようにする。

課題の見られた問題の概要と結果

B[1]三 これからどのような言葉の使い方をしたいのかを具体的な言葉の例を挙げて書く。

正答率 20.6%

学習指導要領における領域・内容

〔第1学年〕 A 話すこと・聞くこと

オ 話合いの話題や方向をとらえて的確に話したり、相手の発言を注意して聞いたりして、自分の考えをまとめること。

〔第2学年〕 B 書くこと

ウ 事実や事柄、意見や心情が相手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えたり、描写を工夫したりして書くこと。

授業アイディア例

学習の流れ

- 対談で取り上げられている話題に対して自分の考えをもつ。
- 対談を読み、自分と対談者の意見とを比較する。
(第1時)

対談者の発言の内容を踏まえて、経験を根拠にして自分の考えを述べる。
(第2時)

第2時までの学習を基に「現代の日本語は乱れているか」というテーマで、グループに分かれて座談会を行う。
(第3時)

(言語活動) 対談を読んで考えたことを基に座談会を行う。

教材例

- 「美しい日本語とは」
(平成24年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語B[1])



第1時

- 「美しい日本語とは」をテーマにした対談を読む前に、そこで取り上げられている話題に対する自分の考えとその具体例などを記入する。

〔ワークシートの例〕

「美しい日本語とは」を読む前に		
	あなたの考え	具体例・経験・根拠など
○ 現代の日本語は乱れていると思うか		
○ 下のような言葉遣いをどう思うか		
(1) ハーフクエスチョン		
(2) ら抜き言葉		
(3) 「ヤバイ」、「マジ」、「ウケる」		

- 対談を読んで自分の考えと比較し、自分の考えに近い発言とそうでない発言とに色分けして本文中に傍線を引く。

第2時

- 対談の途中に入ったつもりで、対談の発言の内容に対する自分の考えを述べる。



教師

前回、色分けして傍線を引いた部分の対談者の発言を一箇所選んで、その発言に続けて実際に発言してみましょう。ワークシートにメモしたことを参考に発言するとよいですね。

- 「……大岡さんが最近、聞き苦しく感じられる言葉遣いがありますか。」という発言に続いて私が発言するとしたら

私が聞き苦しく感じるのは、「なで」から始まる話し方です。この言い方だと、無理やり言葉を始めていくような不自然な感じがするからです。最近、テレビやラジオでもよく「だから」など、私は普通の言い方をした方がよいと思います。



- 「……それから『ら抜き言葉』が気になって、気になって。」という発言に続いて私が発言するとしたら

「ら抜き言葉」が気になつて、普通の生活の中で使うのではないかと思ひます。例えば、「食べれる」より「食べられる」の方が自然な感じがします。



第3時

- ④ 第1時で記入したワークシートや第2時で実際に発言した内容を基に、「現代の日本語は乱れているか」というテーマでグループごとに座談会を行う。



6人グループで座談会を行います。最初に3名が5分間座談会を行ってください。残りの3名は聴衆役です。その後、役割を交替してください。

- ※ 相手の発言の内容を踏まえて自分の考えを述べる。
- ※ 直前の発言の内容に自然につながるように、言葉遣いや表現を考える。
- ※ 自分の考えが相手に伝わるように、詳しく説明したり、理由や根拠となる具体例などを示したりして述べる。



ここがポイント

- ⑤ 終了後、それぞれの立場から意見を述べ合う。



自分たちの座談会を振り返り、「相手の発言を踏まえて自分の考えを述べていたか」、「理由や根拠となる具体例を示していたか」という二つの観点から意見を交流しましょう。

〔参考〕対談での発言の内容を受ける際の話し方の例

- 共感して、具体例を出す。
「……という意見については、私もそう思います。例えば～」
- 疑問点を出して、詳しく説明する。
「……という考えについて、私は疑問に思います。それは～」
- 反対の立場に立って、理由を述べる。
「今の……という考えに私は反対です。なぜかという～」
- 話題を転換・拡張して、具体例を出す。
「今の……ということの他にもこんなことがあります。それは～」
- これまでの話の内容を整理し、まとめる。
「今まで話してきたことをまとめると、～」



留意点

- ⑤で座談会を振り返る際は、例えばビデオカメラやタブレット型PC、ICレコーダーなどを活用することが考えられる。録画・録音した座談会をその場で再生し、感想を述べ合ったり批評し合ったりすると効果的である。
- 本単元の学習を踏まえて、言葉に対する自分の考えをまとめて記述させるなど、「書くこと」の学習として位置付けることも可能である。